

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 7日

中施策事業名	多文化共生推進事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧

①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる
④中施策事業の対象	市在住の外国人市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市在住の外国人市民に対し、生活に必要な手続きやイベントの情報を提供することで、市及び周辺住民と関わるきっかけを持つことができています
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・豊明市国際交流協会支援事業 ・多文化共生施策懇話会の開催及び多文化共生計画の推進 ・外国語版広報の作成・配布 ・シェアト市との交流事業 ・ポルトガル語通訳の配置及び関係課との調整 ・多言語対応の三者間通話による電話通訳 ・各課から依頼の翻訳物依頼 ・会計年度任用職員に関すること ・日本語ボランティア養成講座

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
外国語版広報の取得率	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	80	80	80	80	80
	実績値	82	82			
単位	%					
日本語教室の参加者	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	300	350	350	350	350
	実績値	70	132			
単位	人					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		10,126千円	9,096千円		
a	事業費合計	10,126千円	9,096千円	9,534千円	
	人件費	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
	金額	0千円	0千円		
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		3,949千円	3,721千円	3,823千円	
③ コスト(①-②)		6,177千円	5,375千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		90円	78円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価「B」</p> <p>外国語版広報は4ヶ国語で各施設・店舗等で定期配布し活用されている。日本語教室はコロナの影響はあるものの、徐々に参加者が増えてきている。公共施設において3者間通話の利用が増えており、特にベトナム人の多くが子育て世代のため、保育園等での利用が増えている。急速に増加しているベトナム人への庁舎内での複合的な対応ニーズが高まっており、さらに病院受診時の医療通訳の不足、災害時の対応ができていないため、3者間通話の対応を拡大する必要がある。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	外国人市民へ必要な情報が届くように、Facebookによる定期的な情報発信や外国人専用ダイヤルの周知を行い、キーパーソンの協力を得て情報発信のさらなる拡大を図る。また、ベトナム人通訳の配置を検討するとともに、災害対応に備え、災害時外国人専用ダイヤルを開設できるように3者間通話の契約等の調整を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	新たなキーパーソンの発掘をし、外国人市民が孤立し取り残されないように多国籍化への対応に備える。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 7日

中施策事業名	区・町内会活動支援事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	区・町内会等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	区・町内会の実情や特性にあった財政支援を受けられ、地区交流拠点の新設、交流機会の充実を図ることが可能となっている		
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・区長会・区長連合会 ・区一括交付金・正副区長報償 ・コミュニティ助成事業 ・集会所改修等補助金(借上事業含む) ・町内会等配布物(回覧・全戸配布) ・地縁団体の登録、変更手続き及び証明書交付 ・土木工事認定委員会		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
地区交流拠点の年間設置箇所数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	1	1	1	1	1
	実績値	1	1			
単位	箇所					
集会所改修等補助の件数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	5	5	5	15	15
	実績値	11	17			
単位	箇所					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		68,855千円	67,629千円		
人件費	a 事業費合計	68,855千円	67,629千円	71,519千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		2,500千円	4,500千円	5,000千円	
③ コスト(①-②)		66,355千円	63,129千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		964円	917円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価「A」</p> <p>地区交流拠点として整備した共生交流プラザがオープンし市民交流の中核拠点として防災訓練や区町内会議等を実施している。また老人憩いの家の譲渡に伴う認可地縁団体化が全て完了したが、引き続き運営支援をしていく。就労の延長などの理由により、区長を始め役員の担い手が不足しているため運営環境の改善に向けた相談支援が必要である。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	区へ依頼する提出書類のさらなる簡素化に向けて引き続き関係各課と調整する。会議体や回覧依頼等、デジタル化対応に向けて、対応可能な地域からできる範囲で相談支援をしていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	区の役員への負担軽減について、引き続き関係各課と調整する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 7月 25日

中施策事業名	LGBT事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市民及び職員		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	L（レズビアン・女性同性愛者）G（ゲイ・男性同性愛者）B（バイセクシュアル・両性愛者）T（トランスジェンダー・生まれたときの性別にとらわれずに生きたい）その他、多様な性についての理解が進んでいる		
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・理解促進研修会の開催 ・他自治体との意見交換会 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
LGBT理解促進のための研修会	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	9	8	8	8	8
	実績値	4	4			
単位	回					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			379千円	285千円	
人件費	a 事業費合計		379千円	285千円	308千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			379千円	285千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			6円	4円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価「B」</p> <p>高校2校、中学校1校、市役所新人職員1回の計4回研修会を実施し、合計1,343名の方に参加いただいた。昨年同様LGBTに関する認知度・関心は高く、研修後には身近に当事者がいた場合に力になりたいと回答する割合が高くなり研修効果として理解から行動への変化が期待できる。40代以上になると理解や行動する割合が低いため、複数年に1度は、支える側となる学校関係者や社協等への研修が必要である。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	当事者にとって積極的な広報を好まない傾向にあるため、他市町との意見交換や関係団体から当事者の声を取り入れ、環境整備に努める。また、パートナーシップ宣誓制度の活用例をHPにアップし周知啓発を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	中学校、高校での研修会が定着してきているため、多感時期を過ごす学生を支える側への研修を開催する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 7月 25日

中施策事業名	共生交流プラザ管理運営事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧

①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる
④中施策事業の対象	市民、地域の多様な主体
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民や地域の多様な主体が交流し、世代や分野を超えてつながる場所となっている。この場所で、市民一人ひとりの生きがいを、地域とともに創っていく地域共生社会の実現を目指す。
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・豊明市共生交流プラザ管理運営事業

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
来館者数		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	0	50,000	55,000	60,000	65,000
		実績値	0	250,000			
単位	人						
		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	0	0	0	0	0
		実績値	0	0			
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			12,343千円	81,987千円	
人件費	a 事業費合計		12,343千円	81,987千円	58,744千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			0千円	3,000千円	0千円
③ コスト(①-②)			12,343千円	78,987千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			179円	1,148円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

<p>上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析</p>	<p>総合評価「B」</p> <p>令和4年5月にオープンし、管理運営に関する伴走支援を積極的に行い、指定管理者に目指す姿の共有を徹底することで運営上の判断やが管理上の危険に対し迅速に対応を行うことができた。また、旧学校という場の効果として児童生徒が来場しやすく、活動的な新たな20代～40代の表現者、乳幼児を連れた子育て世代、アクティブシニア等、全世代が多く訪れているため企業側も連携しやすく、少し困難を抱えた方の交流も増えている。今後は駐車場不足への対策や体育館の熱中症対策が必要である。</p>
------------------------------------	--

■改善案の検討

<p>現年度に実施可能な改善・調整事項</p>	<p>利用状況や利用者の声を確認しながら、興味関心から始まる活動と少し困難を抱えた方との新たな出会いや発見が生まれるよう、地域共生社会のさらなる実現に向けた運用方法の改善を図る。また広場の活用促進や体育館の熱中症対策等について調整する。利用環境の整備にあたっては、ガバメントクラウドファンディングや企業版ふるさと納税の活用を検討する。</p>	
<p>翌年度以降に実施可能な改善・調整事項</p>	<p>施設内広場の活用促進や体育館の熱中症対策を行っていく。</p>	
<p>今後、改善・拡大する事業</p>	<p>事業名</p>	<p>内容、理由、時期等</p>
<p>今後、実施すべき新規事業</p>	<p>事業名(仮称)</p>	<p>内容、理由、時期等</p>
<p>今後、休廃止する事業</p>	<p>事業名</p>	<p>内容、理由、時期等</p>

中施策評価書

作成日 令和05年 8月 14日

中施策事業名	豊明夏・秋まつり支援事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	市内外の人がとよあけの魅力を楽しめる環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民、市外の人及び実行委員会		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	豊明市の風物詩である夏まつり及び秋まつりを多くの人に体感してもらうことにより、実行委員としてまつりの企画・運営に携わる人材の増加・育成につながっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊明夏まつり実行委員会事務 ・ 豊明秋まつり実行委員会事務 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
豊明秋まつり来場者数(延べ)	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	実績値	0	18,000			
単位	人					
豊明夏まつり来場者数(延べ)	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	52,000	52,000	52,000	52,000	52,000
	実績値	0	15,000			
単位	人					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			3,500千円	6,500千円	
人件費	a 事業費合計		3,500千円	6,500千円	7,000千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			3,500千円	6,500千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			51円	94円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価「B」</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、夏まつりは1日のみで時間も短縮しコロナ対策を徹底して開催し花火も実施できたため、来場者数は目標値に届かなかったものの市民から好評を得た。秋まつりは市役所から共生交流プラザへ開催場所を移し、1日だけの開催であったが、予想を超える出店や協力者が増えたことにより多くの来場につながった。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	夏まつりについては、コロナの状況次第だが2日間の開催等、実行委員会組織と協議し可能な範囲で実施していく。秋まつりについては、豊明市内の関係機関が開催するまつりと同日開催できるよう調整する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	まつり継続に向けた、適切な実施方法について実行委員会と引き続き協議をする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 7日

中施策事業名	友好自治体交流事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	31 豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から、「足を運んでいただけるまち」になっている		
②大施策	とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす		
③中施策	とよあけの魅力を発信する		
④中施策事業の対象	市民・市民団体等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	上松町・豊根村に市民や団体が訪問することによって交流が生まれ、人々に豊明市の魅力を伝えることができている。友好都市交流事業は、お互いの市民及び職員を派遣・受入交流し、お互いの文化を伝え、学ぶことができている。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊根村との交流事業 ・上松町との交流事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
上松町交流事業参加者数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	40	40	40	40	40
	実績値	0	0			
単位	人					
豊根村温泉施設利用者	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	実績値	654	540			
単位	人					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		375千円	313千円		
a	事業費合計	375千円	313千円	451千円	
	人件費	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		375千円	313千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		5円	5円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価「B」</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、都市間交流を実施できる状況ではないため、事業を中止した。豊根村温泉施設利用者についても令和2年度からコロナ禍による利用減につながっている。コロナ前の上松町との交流手段に対して成果が低いいため交流の在り方を見直す必要がある。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	友好都市と今後の事業実施の見直しを含め協議していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	友好都市と今後の事業実施の見直しを含め協議していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 7日

中施策事業名	市民活動支援事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧

①めざすまちの姿	34 若い世代も地域で活動し、地域の自治力が高まっている
②大施策	若い世代が地域活動で活躍し、地域の自治力を高める
③中施策	世代を超えて連携し、地域の問題を自ら解決する環境をつくる
④中施策事業の対象	市内地域社会活動団体に所属している人
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市内各団体が自立し相互に支え合いながら地域活動の一角を担っている。
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	協働推進委員会開催、協働推進計画推進・市民活動保険、アダプトプログラム推進・市民提案型まちづくり事業交付金 ・情報サイト運営、備品、公用車貸出

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
市民提案型交付金の採択事業数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	13	13	13	21	21
	実績値	9	9			
単位	事業					
地域の活動に参加している若者の割合 ※	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	73.7	73.7	76.5	76.5	79.4
	実績値	56.8	52.8			
単位	人					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		9,458千円	7,265千円		
人件費	a 事業費合計	9,458千円	7,265千円	7,913千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		140千円	140千円	140千円	
③ コスト(①-②)		9,318千円	7,125千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		135円	104円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価「B」</p> <p>市民提案型事業については、地域団体を対象団体に統合し幅が広がったが、コロナ禍であったため新規提案は少なく継続支援が多かった。初期活動時の備品を揃える上で一定の効果があるものの財政支援の限界もあるため、相談支援に切り替える必要がある。まちづくり指標「地域の活動に参加している若者の割合」が減少傾向にあるため、若者が参画しやすい活動が新たな生まれるよう、共生交流プラザ「カラット」のような市民が集まりやすい環境でイベントや交流が生まれやすい事業を展開する必要がある。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	共生交流プラザ「カラット」で多世代多分野の活動がまじりあう事業等を引き続き実施し、アクティブシニアがアクセスしやすい環境を整備する。また少し困難を抱えた方も興味関心が広がる場所となるよう引き続き充実させていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	市民活動等情報周知方法を抜本的に見直し、アクセスしやすい利用環境を目指す。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 7日

中施策事業名	男女共同参画推進事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧

①めざすまちの姿	36 女性が職場や地域で活躍し続けている
②大施策	女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる
③中施策	職場や地域において女性の活躍の場を増やす
④中施策事業の対象	市内在住・在勤の女性
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	女性の社会生活活動やグループ活動への参加のきっかけづくりや子育て中の女性が自分のために使える時間（学習時間）の提供を目的とした講座を実施することで、様々な年代の女性が、自分らしい生き方を選択できる第一歩となっている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画懇話会の開催及び施策の企画推進 男女共同参画講座の企画及び開催 男女共同参画推進担当職員に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
講座参加満足度（アンケート調査）	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	100	100	100	100	100
	実績値	100	100			
単位	%					
男女共同参画チラシ配布箇所数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	2	3	3	3	3
	実績値	2	2			
単位	箇所					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		301千円	275千円		
a	事業費合計	301千円	275千円	481千円	
	人件費	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等（収入）		0千円	0千円	0千円	
③ コスト（①－②）		301千円	275千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		4円	4円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価「A」</p> <p>男女共同参画講座では、共生交流プラザにて市民大学ひまわりとの共催事業を開催（4講座、参加者数39名）やDV講座（高校2校、参加者数729名）を実施し質の高い講座を実施することができ、満足度も非常に高く好評を得ている。また、他課のイベント時にイベント内容に関連した啓発チラシを直接配布することで、配架するよりも興味関心をもっていただけた。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	共生交流プラザカラットにおいて、多世代多分野がまじりあう事業を、指定管理者・市民活動者・企業等と協働で実施していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	豊明市男女共同参画計画の見直しおよび上位計画への統合に向けて協議検討をする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等